

KUMAMOTO BAND

熊本バンド146周年記念

早天祈祷会



教師ジェーンズから受洗した人々

と き：2022年1月30日(日)

と ころ：花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

主催／熊本バンド146周年記念行事実行委員会

司 会 岡田 和希 氏 (熊本大学YMCA花陵会)

開 会

讃 美 歌 讃美歌260番

聖 書 新共同訳 ヨハネによる福音書第10章1節～16節
森田 みゆ 氏 (ルーテル学院高校)

祈 祷 本堀 秀一 氏 (熊本希望ヶ丘キリスト教会)

賛 美 讃美歌21 57番
ハンドベル演奏 (ルーテル学院中学・高校ハンドベルクワイア)

奉教趣意書朗読 川渕 晋哉 氏 (熊本大学YMCA花陵会)

同口語訳朗読 村田 陽海 氏 (九州学院高等学校)

聖 書 創世記21章14節～21節
岩内 彩佳 氏 (九州ルーテル学院大学)

奨 励 「目を開く」
越後屋 朗 氏 (同志社大学神学部教授)

祈 祷

賛美・献金 讃美歌461番 一同 *熊本バンド記念行事のために用いられます。

主 の 祈 り 一同

実行委員長挨拶 森嶋 道 氏 (熊本草葉町教会)

閉 会

Rock of Ages, cleft for me
Augustus Montague Toplady, 1776

TOPLADY
Thomas Hastings, 1830

1
千歳とせの岩いわよ、わが身みをかこめ、
さかれしわきの血ちしおと水みづに
罪つみもけがれも 洗あらいきよめよ。

2
かよわき我われは 律法りつぽうにたえず、
もゆる心こころも たぎつなみだ涙なみだも、
罪つみをあがなう 力ちからはあらず。

3 コリント前 10・4
十字架じゆうじゆうの外ほかに 頼たのむかげなき
わびしき我われを 憐あわれみたまえ、
み救すくいなくば 生なぐる術すべなし。

4
世よにある中うちも、世よを去さる時ときも、
知らぬ陰府よみにも 審さばきの日ひにも、
千歳とせの岩いわよ、わが身みをかこめ。

花岡山で熊本バンドの青年たちが読んだ聖書
ヨハネによる福音書第10章1節〜16節

1 「はつきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。2 門から入る者が羊飼いである。3 門番は羊飼いに門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。4 自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているから、ついて行く。5 しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」6 イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。7 イエスはまた言われた。「はつきり言っておく。わたしは羊の門である。8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。9 わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つめる。10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。14 わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の良い羊飼いに導かれ、一つの群れになる。

キリスト教を信じる宣言文

我々が、キリスト教を学んだところ、大変教えられるところがあった。以後、これを学ばば学ぶほど喜びが得られる。そこで、このキリスト教を日本の国中に伝道し、文明を知り文化を得てほしいと考えるに到った。

しかしながら、キリスト教の深い真理を知らずして、古い伝統と習慣にしばられている人々が少なくない。我ら新しい真理を知った者として、この真理を知らない人々の現状を見るに、いたたまれないもどかしさを感じる。この際、我ら、新しい大きな使命をになう青年は、一大決心をし生命がけでキリスト教が公明正大な宗教であることを、明確にしてゆかねばならない。この決意の実行に、我々はもっとも力を尽くすつもりである。

そこで志を同じくするものが、花岡山に登り、一致協力してキリスト教の信仰を守ってゆくために、次の約束をする次第である。

- 一. キリスト教を信じる者は、お互いに兄弟としての交わりをもち、生活全般にわたって、互いに戒めあい忠告しあいながら、良い行いを実行しなければならない。
- 一. いったん、キリスト教の信仰を持ちながら、信仰にふさわしい生活ができない者は、神をあざむくことになる。また、自分自身の心をもあざむくことになる。こうした者は、必ずや神の罰を受けることを知らなければならない。
- 一. 今日、我が国の多くは、キリスト教を拒否している。それ故に我らの内、たとえ一人でもキリスト教をすてる者は、世間の物笑いになるだけでなく、我らのせつかくの決意をもふみにじり、実行不可能にしてしまう。ともども、努力しようではないか。

1876年1月30日 日曜日 記す
(奉教趣意書口語訳)

主の祈り

天にまします我らの父よ

ねがわくは御名^{みな}をあがめさせたまえ 御国^{みくに}を来らせたまえ

みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用^{にちよう}の糧^{かて}を今日も与えたまえ

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく 我らの罪をもゆるしたまえ

我らをこころみにあわせず 悪より救い出したまえ

国とちからと栄^{さかえ}とは限りなくなんじのものなればなり アーメン

*熊本バンドとは…

日本のキリスト教プロテスタント教会の歴史には、内村鑑三を中心とした札幌バンド、植村正久を中心とした横浜バンドと熊本バンドの三源流があります。熊本バンドとは、同志社の宣教師が、熊本から来た青年たちを熊本のグループという意味で呼び始めたことから用いられるようになりました。

この青年たちは1871年(明治4年)に設立された熊本洋学校で、アメリカ退役軍人ジェーンズ教師の感化によってキリスト教を受け入れた者たちです。彼らはその思いを「奉教趣意書」という文章にまとめ、これに署名した35人と後に仲間に加わった者で、その大部分の青年が創立直後の同志社に転校卒業し、同志社のみならず、日本の近代市民社会形成の上で大きな貢献をしました。

「奉教趣意書」は1876年(明治9年)1月30日、花岡山で行われた祈祷会で朗読して署名されました。花岡山にある「奉教之碑」は同志社創立90年記念に寄贈され、1965年に建立されました。

(花岡山「熊本バンド奉教の碑」解説より)

14 アブラハムは、次の朝早く起き、パンと水の革袋を取ってハガルに与え、背中に負わせて子供を連れ去らせた。ハガルは立ち去り、ベエル・シエバの荒れ野をさまよった。

15 革袋の水が無くなると、彼女は子供を一本の灌木かんぼくの下に寝かせ、

16 「わたしは子供が死ぬのを見るのは忍びない」と言って、矢の届くほど離れ、子供の方を向いて座り込んだ。彼女は子供の方を向いて座ると、声をあげて泣いた。

17 神は子供の泣き声を聞かれ、天から神の御使いがハガルに呼びかけて言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子供の泣き声を聞かれた。

18 立つて行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかりと抱き締めてやりなさい。わたしは、必ずあの子を大きな国民とする。」

19 神がハガルの目を開かれたので、彼女は水のある井戸を見つけた。彼女は行って革袋に水を満たし、子供に飲ませた。

20 神がその子と共におられたので、その子は成長し、荒れ野に住んで弓を射る者となった。

21 彼がパランの荒れ野に住んでいたとき、母は彼のために妻をエジプトの国から迎えた。

461

児 童

Jesus loves me, this I know
Anna Bartlett Warner, 1859

JESUS LOVES ME
William Batchelder Bradbury, 1862

♩ = 60 主われを あいす 主はつよ ければ われよわ

Refrain

くとも おそれは あらじ わが主 イエス わが主

イエス わが主 イエス われを あいす アーメン

1 主われを愛す、主は強ければ、
われ弱くとも 恐れはあらじ。
(おりがえし)
わが主イエス、わが主イエス、
わが主イエス、われをあいす。

2 ヨハネ1章 3:16
わが罪のため さかえをすてて、
天よりくだり 十字架につけり。

3 みくにの門を ひらきてわれを
招きたまえり、いさみて昇らん。

4 わが君イエスよ、われをきよめて、
よきはたらきを なさしめたまえ。